

乾田V溝直播 マニュアル



<R8産 重点対策ポイント>

- ・ 代かきの前に土壌改良資材及びリン酸、カリ肥料を施用する。
- ・ 4月中～下旬に、圃場がよく乾いた条件で播種する。
※種子がV溝の底に位置し、覆土されていることを確認
- ・ 出芽個体の半数が2葉期になったことを確認して入水。
- ・ 入水後は、抑草効果と肥効を持続させるため、
収穫間際まで湛水管理を行う。

令和8年4月

アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 圃場の準備

・前年の秋（圃場が乾く時期）に、耕起から代かき、溝切りまでの作業を実施しましょう。

<耕起・代かき・溝切り 作業の流れ>

畦塗り

湛水後の減水深を小さくするために、畦塗りは、丁寧に行いましょう。

土改材散布

基肥は、窒素のみの肥料であることから、「PK ケイ酸 40～60kg/10a」を必ず施用しましょう。

耕起

代かき

均平に心掛け、浅水で前作の作物残渣を確実にすきこみましょう。代かき後は、自然減水とするか、水の濁りが落ち着いてから落水しましょう。

溝切り

圃場の外周部や乾きにくい部分に、排水溝を設置し、圃場全体を均一に干しましょう。

<排水溝の設置例>



乾きにくい部分に管理機を走らせる



畦塗りと同時に額縁排水溝を設置
(隣接の圃場から漏水が懸念される場合は、
深めに額縁排水溝を設置する。)

2. 種子の準備

- ・目標の苗立ち数 150～200 本/m² (m間 30～40 本) を確保するため、播種量は、乾籾で 10a 当たり 6～8kg としましょう。
- ・播種時期が早いほど、出芽に時間がかかるため、播種量は時期に応じて調整しましょう。

(例) 4月 10～20 日播種：8kg/10a 程度
4月 20～30 日播種：6kg/10a 程度

- ・腐敗籾等の発生を防ぎ、苗立ちを確保するため、**キヒゲンR-2フロアブル** (乾燥種子 1kg 当たり原液 20mL を塗抹処理) による種子消毒を行いましょう。



キヒゲンR-2フロアブル塗抹後の種子

3. 播種

- ・播種は、4月中旬～下旬で、圃場が十分に乾燥した状態で播種しましょう。

<播種時の土壌水分の目安>

適正水分状態で播種した圃場



トラクタのラグ跡はあまり残らない
V溝が高い精度で形成されている (深さ 5cm、幅 2cm)
少し覆土されている

水分が高い状態で播種した圃場



V溝の形成が不完全なので、鳥害を受ける可能性が高い

過乾燥の状態で播種した圃場



V溝の形成が崩壊

- ・基肥は、「LPss 乾田直播専用」肥料を使用し、窒素施用量は、原則として、「移植慣行 + 2kg/10a」としましょう。

<施肥量の目安> 高温対策として2割程度増やしています。

土壌区分	施肥量 (10a 当たり) 目安	
砂壤土	LPss 乾田直播専用 (40-0-0)	28～30kg
壤土・黒ボク		26～28kg
粘質土		23～25kg



- ※乾田直播専用肥料には、リン酸、カリが含まれていないので、代かき前に、「PK ケイ酸 40～60kg/10a」を施用しましょう。

4. 水管理

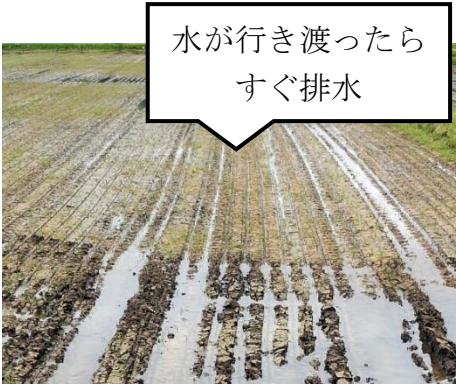
(1) 播種～2週間

- ・近年、播種後に無降雨が続き、土壌が乾燥して稲の発芽が遅れる圃場が見られます。
出芽を促進するため、「播種後3日までに通水処理」を行いましょう。

※覆土が十分されており、土壌が湿っている場合は不要。

- ・その後も、好天が続き土壌が乾く場合は、適宜通水処理を行い、出芽を促進しましょう。
- ・通水の際は、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。

いつもより
ゆっくり入水



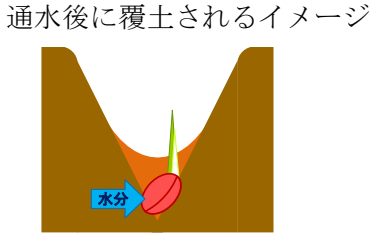
播種後の通水処理



播種後に、無降雨日が続き、土壌が乾燥し覆土がされていない。⇒出芽が遅れる。



通水により、軽く覆土され、種子に水分が供給されることで、出芽が促進されます。

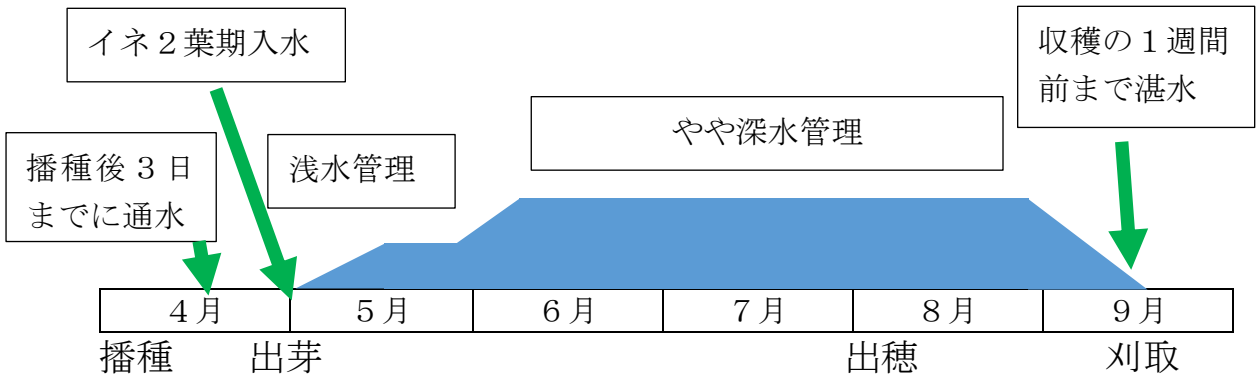


(2) 稲2葉期頃

- ・出芽している個体 150～200 本/m² (m間 30～40 本) の内、第2葉展開中の個体が半数程度になったら入水し、田面が露出しないように、湛水状態を保持しましょう。

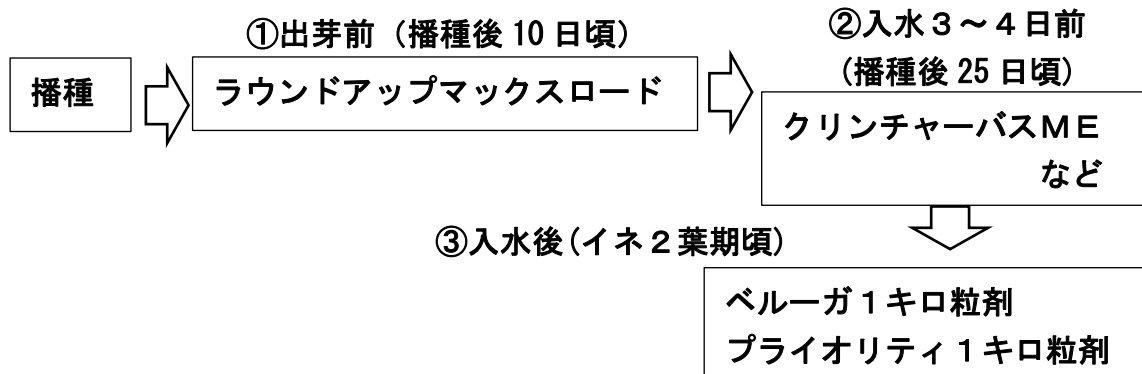
(3) 収穫1週間前まで

- ・抑草効果と肥効を持続させるため、収穫の1週間前まで湛水状態を保ちましょう。
- ・地耐力が確保されているため、中干しは行いません。



5. 雑草防除

・基本体系（播種後日数は、4月下旬播種の目安）



散布時期等	除草剤名	散布量 (/10a)	使用上の注意	W C S 用 稲	飼 料 用 米
①出芽前 (播種後10日頃)	ラウンドアップ マックスロード ※1	200～ 500mL 希釈水量 25～50L	・散布が遅れると、イネが 出芽して、薬害を受ける ので、注意する。 ・周辺の圃場に飛散しない よう注意して散布する。	○	○
②入水3～ 4日前 (播種後25日頃)	クリンチャーバス ME液剤	1,000mL 希釈水量 70～100L	・展着剤は加用しない。	○	○
	トドメバス MF液剤	1,000mL 希釈水量 100L	・展着剤は加用しない。	○	○
③入水後 (稲2葉期)	ベルーガ 1キロ粒剤	1 kg	・ノビエ2.5葉期まで (ただし収穫75日前まで)	○	○
	プライオリティ 1キロ粒剤 ※2	1 kg	・ノビエ3葉期まで (ただし収穫90日前まで)	○	○

※1 ラウンドアップマックスロードを散布できなかった場合は、雑草の発生状況を確認し、早めにクリンチャーバスME液剤等の液剤を散布しましょう。

※2 プライオリティ1キロ粒剤の収穫前日数は90日のため、WCS用稲として収穫できなくなるので、収穫まで90日以内の場合はWCS用稲には使用しない。

【雑草の多発生が懸念される圃場のみ】

ラウンドアップマックスロードで雑草を枯らした後に散布すると効果的です。

マーシェット乳剤：

使用時期：乾田直播の播種直後～出芽前（雑草発生前）（入水15日前まで）

薬量：1,000～1,500mL/10a、希釈水量50～100L/10a

6. 病害虫防除

直播は、移植と違い苗箱施薬による防除を行わないため、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ等の害虫やいもち病の防除が必要となります。

(1) イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ

・発生が見られたら、5月下旬～6月上旬に以下を参考に防除してください。

対象害虫	防除の目安	薬剤名	使用量 (/10a)	使用上の注意点	WCS用稲	飼料用米
イネミズゾウムシ	成虫数 3.0頭 /10株	トレボン粒剤	2～3kg	<ul style="list-style-type: none"> 湛水状態（3～5cm）で均一に散布する。 散布後、少なくとも4～5日間は湛水状態を保つ。（7日間は、落水、かけ流しはしない）。 	○ 収穫 21日前 まで	○ 収穫 21日前 まで
イネドロオウムシ	成虫数 0.5頭 /10株	トレボン粉剤DL	3kg	<ul style="list-style-type: none"> 前年多発した圃場等では発生状況を必ず確認する。 	○ 収穫 7日前 まで	○ 収穫 7日前 まで



イネミズゾウムシ(成虫)と食害



イネドロオウムシ(幼虫)と食害

(2) いもち病

・下記の薬剤で、確実にいきましょう。

薬剤名	散布時期	使用量	使用上の注意点	WCS用稲	飼料用米
ルーチンシードFS	播種前 塗抹処理 (種子被覆剤を 加用)	乾燥種籾 1kg 当たり 原液 8ml (原液 71ml/10a まで)	<ul style="list-style-type: none"> 播種前処理は、所定量の原液に種子被覆剤を加用して種もみに均一に付着させる。 	○	○
ルーチン粒剤	6月15日頃	1kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> 湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布する。 散布後、少なくとも7日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水およびかけ流しをしない。 	○ 収穫 30日前 まで	○ 収穫 30日前 まで

(3) 紋枯病

・前年度、紋枯病が発生した圃場では下記の薬剤で、防除を行きましょう。

薬剤名	散布時期	使用量	使用上の注意点	WCS 用稲	飼料 用米
エバーゴ ルシード F S	播種前 塗抹処理 (種子被覆剤 を加分)	乾燥種籾 1 kg 当たり 原液 5 ml (原液 44ml/10a まで)	・播種前処理は、所定量の 原液に種子被覆剤を加分 して種もみに均一に付着 させる。	○	○
リンバー 粒剤	幼穂形成期 1 週間前 ～幼穂形成 期頃	3～4 kg	・湛水状態(水深 3～5 cm) で均一に散布する。 ・散布後、少なくとも 7 日 間は湛水状態を保ち、田 面を露出させず、落水お よびかけ流しをしない。	○ 収穫 30 日前 まで	○ 出穂前 まで

(4) その他の病虫害防除 (移植に準じて防除を行ってください)

①粉剤体系

	随時防除		基本防除			随時防除
	紋枯病の発生が 多い圃場		出穂期 (てんたかくは必須防除)	穂前期	傾穂期	カメムシが 多い圃場
	コシヒカリ：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃					傾穂期後
薬剤	バリダシン粉剤 DL		ビームモンカット スタークルF粉剤5DL	ラブサイドキラッ プ粉剤DL	スタークル粉剤DL	トレボン粉剤 DL
使用量	3～4kg/10a		4kg/10a	4kg/10a	3kg/10a	3～4kg/10a
対象 病虫害	紋枯病		いもち病、紋枯病、 カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ類	いもち病、カメム シ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ類	カメムシ類
WCS 用稲	-		-	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで
飼料 用米	○ 出穂前まで		-	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで

②液剤体系

	随時防除		基本防除			随時防除
	紋枯病の発生が 多い圃場		出穂期 (てんたかくは必須防除)	穂前期	傾穂期	カメムシが 多い圃場
	コシヒカリ：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃					傾穂期後
通常 散布	薬剤	バリダシン液剤5	モンカットフロアブル +スタークル液剤10	ラブサイドK2 フロアブル	スタークル液剤10	トレボン乳剤
	使用量	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 2,000倍
空 中 散 布	薬剤	バリダシンエアー	モンカットフロアブル +スタークル液剤10	ラブサイドK2 フロアブル	スタークル液剤10	トレボンエアー
	使用量	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍
対象 病虫害	紋枯病		いもち病、紋枯病、 カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ類	いもち病、 カメムシ類	カメムシ類、ウンカ類、ツ マグロヨコバイ類 (通常)	カメムシ類
WCS 用稲	-		○ 収穫14日前まで	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで
飼料 用米	○ 出穂前まで		○ 収穫14日前まで	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで